

セメント試験成績表

No. 7310084

2025 年 8 月度

UBE三菱セメント株式会社



種 類 品 質		普通ポルトランドセメント JIS R 5210				早強ポルトランドセメント JIS R 5210				高 炉 セ メ ン ト B 種 JIS R 5211				
		J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績			J I S 規格値	試 験 成 績			
			平均値	標準偏差	最大 値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大 値 (最小値)		平均値	標準偏差	最大 値 (最小値)	
密 度 g/cm³		—	3.16	✓	—	—	3.14	—	—	—	3.04	—	—	
比表面積 cm²/g		2500以上	3220	✓	75	—	3300以上	4530	81	—	3000以上	3910	82	—
凝 結	水 量 %	—	27.9	—	—	—	30.3	—	—	—	29.8	—	—	
	始 発 h-min	60min以上	2-09	✓	—	(1-50)	45min以上	1-32	—	(1-10)	60min以上	2-52	—	(2-40)
	終 結 h-min	10h以下	3-11	✓	—	4-05	10h以下	2-35	—	3-05	10h以下	4-05	—	5-35
安定性		バット法	良	良	—	—	良	良	—	—	良	良	—	—
圧縮強さ N/mm²	1 d	—	—	—	—	—	10.0以上	27.8	1.47	—	—	—	—	—
	3 d	12.5以上	30.8	✓	1.52	—	20.0以上	48.9	1.68	—	10.0以上	23.2	1.44	—
	7 d	22.5以上	45.8	✓	1.76	—	32.5以上	60.9	1.89	—	17.5以上	36.6	1.67	—
	28 d	42.5以上	62.6	✓	1.84	—	47.5以上	69.8	1.96	—	42.5以上	62.4	1.81	—
水和熱 J/g	7 d	—	328	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28 d	—	382	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
化学成分 %	酸化マグ ネシウム	5.0以下	1.13	✓	—	1.62	5.0以下	1.01	—	1.63	6.0以下	3.21	—	3.70
	三酸化 硫 黄	3.5以下	2.40	✓	—	2.63	3.5以下	2.97	—	3.22	4.0以下	2.18	—	2.28
	強 熱 減 量	5.0以下	2.62	✓	—	2.91	5.0以下	1.08	—	1.29	5.0以下	1.77	—	2.14
	全 アルカリ	0.75以下	0.48	✓	—	0.60	0.75以下	0.45	—	0.62	—	—	—	—
	塩化物 イオン	0.035以下	0.018	✓	—	0.028	0.02以下	0.009	—	0.014	—	0.011	—	—

備 考 ○ ポルトランドセメント (全アルカリの最大値のうち直近6ヶ月の最大の値)

・普通ポルトランドセメント…………… 0.60%

・早強ポルトランドセメント…………… 0.62%

○ 高炉セメント B 種

・ベースセメントの全アルカリ…………… 0.48%

・高炉スラグの分量…………… 40~45%

1. 試験方法は JIS R 5201、JIS R 5202、JIS R 5203、JIS R 5204 による。

2. 28d圧縮強さおよび28d水和熱は前月度の値を示す。



◎ お問い合わせその他のご連絡先

〒730-0031 広島市中区紙屋町 2-1-22

広島興銀ビル 8 F

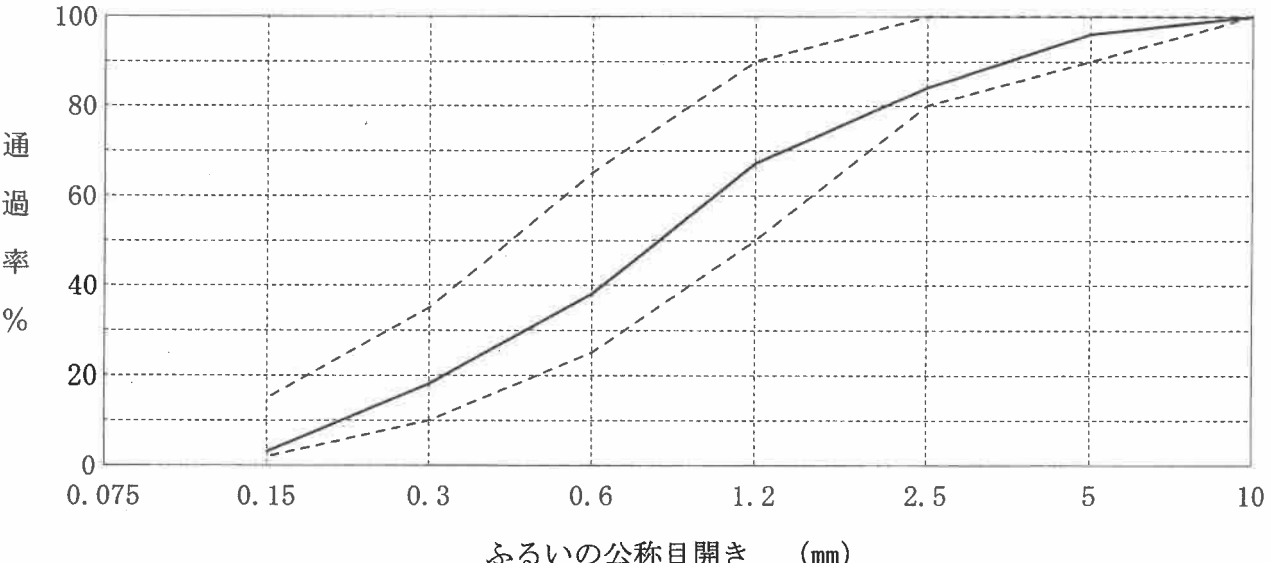
UBE三菱セメント株式会社

中国支店

TEL 082-247-9613

試験規格		骨材のふるい分け試験表						検 印 欄		
JIS A 1102								主 任 試験係		
								 		
試験月日		令和 7年 8月 5日								
試 料	産地品名	津山市加茂町知和								
	採取月日	令和 7年 8月 4日								
	採取場所	ダンプトラック上								
ふるい分け前の試料の質量				502.4 (g)		ふるい分け方法		手動		
ふるいの 公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる 試料の質量及び質量分率				各 ふ る い に各ふるいを連続するふるい とどまる試料の通過する 間にとどまる				範 囲 上 限 下 限 (%)	参 考 $\frac{A\sqrt{d}}{300}$
	縮 分 ① (g)	縮 分 ② (g)	縮 分 計 mr(g) (%)		質量及び質量分率 (g) (%)		質量分率 (%)	もの質量分率 (%)		
10	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0	100	0	100 - 100	---
5	19.4	0.0	19.4	4	19.4	4	96	4	100 - 90	228
2.5	57.8	0.0	57.8	12	77.2	16	84	12	100 - 80	161
1.2	83.0	0.0	83.0	17	160.2	33	67	17	90 - 50	114
0.6	74.3	78.5	152.8	29	313.0	62	38	29	65 - 25	81.1
0.3	47.7	51.1	98.8	20	411.8	82	18	20	35 - 10	57.4
0.15	36.9	36.5	73.4	15	485.2	97	3	15	15 - 2	40.6
受皿	8.7	8.2	16.9	3	502.1	100	0			
合 計			502.1	100						
粗 粒 率			2.94	規 格 値	2.90±0.15		判 定	㊥		
連続するふるいの間にとどまるものの質量分率					規 格 値 (%)	45未満		判 定	㊥	
ふるい分け前後の試料質量差			0.1	規 格 値 (%)	1.0未満		判 定	㊥		

粒 度 曲 線

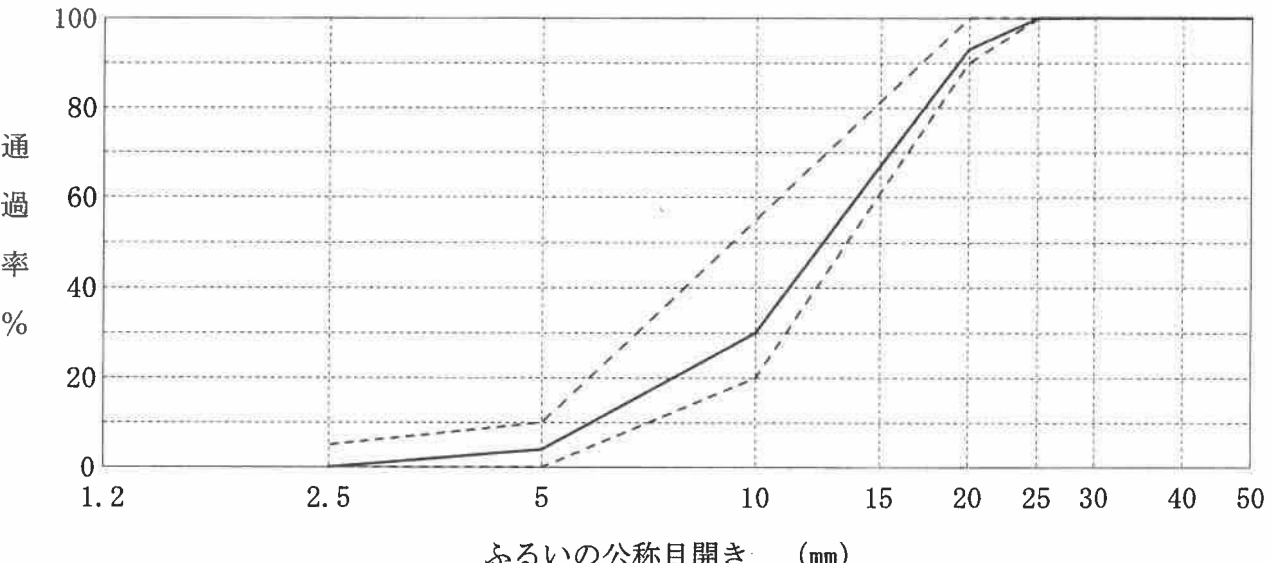


ふるいの公称目開き (mm)

備考：

試験規格	骨材のふるい分け試験表					検 印 欄		
JIS A 1102						主 任 試験係		
						 		
試験月日		令和 7年 8月 5日						
試 料	産地品名		津山市加茂町知和					
	採取月日		令和 7年 8月 4日					
	採取場所		ダンプトラック上					
ふるい分け前の試料の質量			5021.8 (g)		ふるい分け方法		手動	
ふるいの 公称目開き (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる 試料の質量及び質量分率		各ふるいにとどまる 試料の質量及び質量分率		各ふるいを通過 する質量分率		範 囲 上 限 下 限	
	(g)	(%)	(g)	(%)	(%)		(%)	
50	0.0	0	0.0	0	100		100 - 100	
40	0.0	0	0.0	0	100		100 - 100	
30	0.0	0	0.0	0	100		100 - 100	
25	0.0	0	0.0	0	100		100 - 100	
20	351.0	7	351.0	7	93		100 - 90	
15					-		-	
10	3159.2	63	3510.2	70	30		55 - 20	
5	1306.8	26	4817.0	96	4		10 - 0	
2.5	203.4	4	5020.4	100	0		5 - 0	
受皿	0.0	0	5020.4	100	0			
合 計			5020.4	100				
粗 粒 率		6.73	規 格 値		6.85±0.20	判 定	Ⓐ	
ふるい分け前後の試料質量差		0.0	規 格 値 (%)		1.0未満	判 定	Ⓐ	

粒 度 曲 線



ふるいの公称目開き (mm)

備考：



JNLA Z80107JP



試 験 報 告 書

株式会社 ふじもと組 殿
岡山県津山市加茂町小淵29-1

試験品内容：[種 別] JIS A 5308:2024 附属書JA「レディーミストコンクリート用骨材」
JIS A 5005:2020「コンクリート用砕石及び砕砂」
粗骨材 コンクリート用砕石 2005 A (岩質：安山岩)
[大 き さ] 20～5mm
[採 取 日] 2024年11月29日
[産 地] 岡山県津山市加茂町知和
[採 取 場 所] ストックヤード
[製 造 業 者] (株)ふじもと組

試 験 項 目： 1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法) ✓

受領日(試料持込日)： 2024年 12月 12日

試 験 日： 2024年 12月 12日 ～ 2025年 6月 25日

試 験 結 果： 次頁以降のとおり

特 記 事 項： —

試験実施場所：一般財団法人 日本品質保証機構 関西マテリアルテクノ試験所 試験室

- (注) 1. 上記試験品は、試験申込者により試験実施場所へ持ち込まれたものである。
2. 試験品内容等については、試験申込者提出の試験申込書に基づき表記したものである。
3. 試験結果は当該試験品に対しての結果であり、製品すべてを保証するものではありません。

試験の結果は、上記のとおりであることを報告します。

2025年 6月 27日

大阪府東大阪市水走3丁目8番19号
一般財団法人 日本品質保証機構
関西マテリアルテクノ試験所

所 長 井上 聖

技術管理者 那良 時義

この試験報告書の転載、一部分の複製をするときは、事前に当機構の承認を受けてください。
尚、報告書には改ざん防止策を施しています。

一般財団法人 日本品質保証機構



7/3

1. 骨材のアルカリシリカ反応性試験 (モルタルバー法)

(1)試験方法 JIS A 1146:2022「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。

・粒度調整した代表試料の粒度分布 : 粒度区分A

・湿度95%以上を確保した手段 : 吸取紙による被覆及び容器底面の水張り

(2)使用したセメント ・種別 : 普通ポルトランドセメント

・販売会社名 : 一般社団法人 セメント協会

・酸化ナトリウム(Na_2O) 0.27 %・酸化カリウム(K_2O) 0.38 %・全アルカリ量(R_2O) 0.52 %

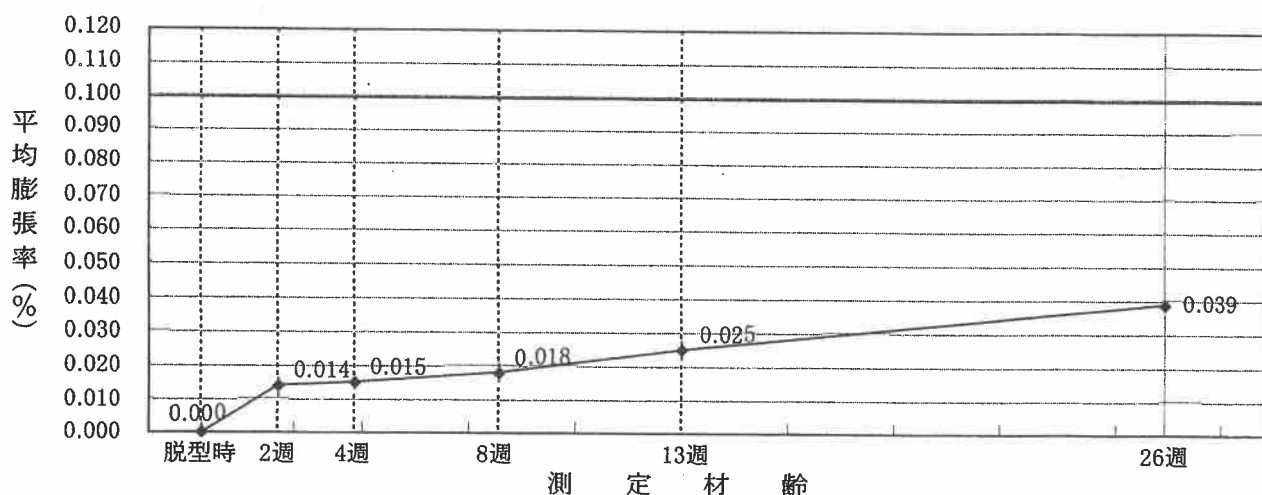
・水酸化ナトリウム水溶液を加えた後のセメントの全アルカリ量 : 1.2 %

(3)判定基準 骨材のアルカリシリカ反応性の判定は、供試体3本の平均膨張率が、測定材齢26週で0.100%未満の場合は、「無害」とし、0.100%以上の場合は「無害でない」とする。

[備考] なお、測定材齢13週で0.050%以上の膨張を示した場合は、その時点で、「無害でない」としてもよい。測定材齢13週で0.050%未満のものは、その時点で、「無害」と判定してはならず、測定材齢26週まで試験を続けた後に判定しなければならない。

(4)試験結果

膨張率 (%)	測定材齢	脱型時	2週	4週	8週	13週	26週	判定
	試験No.							
	1	—	0.015	0.015	0.018	0.025	0.040	無害 ✓
	2	—	0.014	0.016	0.019	0.026	0.039	
	3	—	0.013	0.014	0.017	0.023	0.038	
	平均	0.000	0.014	0.015	0.018	0.025	0.039	
外観観察		異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	異常なし	



以上



試験番号	VE-24-0292追2
受付日	2024年 8月22日
報告日	2025年 4月 2日

骨材のアルカリシリカ反応性試験(モルタルバー法)報告書

大阪府吹田市目8番1号
一般財団法人日本建築総合試験所
試験研究センター
センター長
報告書発行責任者
材料試験室長
西山 篤史

依頼者	会社名	日本冶金工業 株式会社 大江山製造所					
	所在地	京都府宮津市宇須津413					
試験実施期間		2024年9月25日 ~ 2025年3月26日					
試験材料	種類*	フェロニッケルスラグ FNS1.2(ナスサンド)					
	産地*	京都府宮津市宇須津413					
	採取場所*	日本冶金工業 株式会社 大江山製造所					
	採取日*	2024年8月20日					
	採取者*	宮津海陸運輸 株式会社 坂根 隼					
	工事名*						
備考		2024年8月22日に当センターへ搬入された。					
セメントの全アルカリ		酸化カリウム(K ₂ O): 0.38%、酸化ナトリウム(Na ₂ O): 0.27%、全アルカリ(Na ₂ Oeq): 0.52%					
試験方法		「JIS A 1146:2022 骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」とし、相対湿度 95%以上を確保した方法は、吸収紙による被覆とした。モルタルの配合は「JIS A 5011-2:2016 コンクリート用スラグ骨材-第2部:フェロニッケルスラグ骨材 6.4 アルカリシリカ反応性試験」によった。なお、試験は当センター 本部 コンクリート実験室にて行った。					
試験結果	供試体番号	膨張率 (%)					判定
		2週	4週	8週	13週	26週	
	1	0.009	0.011	0.012	0.015	0.018	
	2	0.010	0.011	0.011	0.013	0.016	
	3	0.009	0.011	0.011	0.014	0.016	
平均膨張率		0.009	0.011	0.011	0.014	0.017	無 害
平均膨張率と材齢の関係を図-1に、試験終了時における供試体の状況を写真-1に示す。							
図-1 平均膨張率と材齢の関係 写真-1 供試体の状況(試験終了時)							
担 当	材料部 材料試験室 試験責任者 澁井 雄斗 、 試験担当者 大本 裕樹						

*:試験依頼者の情報による。

以上



(株)きたむら

御中

2025年 7月度～2025年12月度 コンクリート用化学混和剤(JIS A 6204)試験結果報告書

種 類 高性能減水剤 (I 種)

商 品 名 シーカ ビスコクリート ACE 390 (100%)



1. コンクリートの試験結果

	項 目	JIS A 6204による規定値	形式評価試験値	性能確認試験値
フレッシュコンクリート	減 水 率 %	12 以上	15 ✓	15
	ブリーディング量の比 %	— 以下	—	—
	ブリーディング量の差 cm^3/cm^3	— 以下	—	—
	凝結時間の差分	始 発	+90 以下	-30 ✓
		終 結	+90 以下	-35 ✓
	経時変化量	スランプ cm	— 以下	—
		空気量 %	— 以内	—
硬化コンクリート	圧縮強度比 %	材齢1日	— 以上	—
		材齢2日 (5℃)	— 以上	—
		材齢7日	115 以上	133 ✓
		材齢28日	110 以上	119 ✓
	長さ変化比 %	110 以下	94 ✓	—
	凍結融解に対する抵抗性 (相対動弾性係数 %)	— 以上	—	—

注記1. 1m^3 当たりの化学混和剤の使用量 形式評価試験 7.00 kg/m^3 性能確認試験 7.00 kg/m^3

注記2. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。ただし圧縮強度の性能確認試験は1年に1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。

注記3. この表に表示している形式評価試験は、2024年 9月 に ホゾリス ソリューションズ ㈱技術開発センターで実施した試験結果である。

2. 塩化物イオン(Cl⁻)量及び全アルカリ量

項 目	JIS A 6204 による規定値	形式評価試験値	性能確認試験		
			化学混和剤中の含有量	1m^3 当たりの化学 混和剤の使用量	試 験 値
塩化物イオン(Cl ⁻)量	0.02 kg/m ³ 以下	0.00 kg/m ³	0.00 %	7.00 kg/m ³	0.00 kg/m ³
全 アル カ リ 量	0.30 kg/m ³ 以下	✓0.03 kg/m ³	0.4 %	7.00 kg/m ³	0.03 kg/m ³

注記1. 性能確認試験は6か月ごとに1回実施し、この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。

注記2. この表に表示している形式評価試験は、2024年 9月 に ホゾリス ソリューションズ ㈱技術開発センターで実施した試験結果である。

3. その他の項目

項 目	規 格 値	試 験 値
密 度 (g/cm^3 , 20℃)	1.01 ~ 1.07	1.03 ✓

注記. この表に表示している試験値は、2025年 5月 の試験結果である。

コンクリート中の塩素イオン含有量測定データ (道路用)

株式会社 き た む ら

7年 8 月度

製 品 名 :

測定器具 : ソルメイト 1 0 0



月 日	No.	コンクリート中の塩素 イオン含有量 (kg/m ³)	平均値 (kg/m ³)	規定値 (kg/m ³)	合否 判定
8/4	1	0.026	0.022	0.3以下	合
	2	0.020			
	3	0.020			
8/12	1	0.024	0.023	〃	合
	2	0.024			
	3	0.020			
8/18	1	0.024	0.024	〃	合
	2	0.020			
	3	0.028			
8/25	1	0.020	0.020	〃	合
	2	0.020			
	3	0.020			
	1				
	2				
	3				
備 考		測定器具は (財) 国土開発技術研究センター評価品			

アルカリ総量計算

令和7年8月度

(道路用)

株式会社きたむら

鳥取県鳥取市国府町岡益 6 4 - 4 番地

配合

単位量 (kg/m ³)				
水	セメント	砕石	砕砂	混和剤
175	357	1084	843	5.360

ポルトランドセメント全アルカリ 6 ヶ月間の最大値 0.60 %

骨材中の NaCl の量 0.0 %

混和剤中の全アルカリ量 0.4 %

コンクリート中のセメントに含まれる全アルカリ量(kg/m ³) : R _c R _c = (単位セメント量kg/m ³) × (セメント中の全アルカリ量Na ₂ O _{eq} : % / 100)	R _c = 2.142
コンクリート中の混和材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) : R _a R _a = (単位混和材量kg/m ³) × (混和材中の全アルカリ量 : % / 100)	R _a = 0.000
コンクリート中の骨材に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) : R _s R _s = (単位骨材量kg/m ³) × 0.53 × (骨材中のNaClの量 : % / 100)	R _s = 0.000
コンクリート中の混和剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) : R _m R _m = (単位混和剤量kg/m ³) × (混和剤中の全アルカリ量 : % / 100)	R _m = 0.021
流動化剤を添加する場合は、コンクリート中の流動化剤に含まれる全アルカリ量(kg/m ³) : R _p R _p = (単位流動化剤量kg/m ³) × (流動化剤中の全アルカリ量 : % / 100)	R _p = 0.000
コンクリート中のアルカリ総量(kg/m ³) : R _t R _t = R _c + R _a + R _s + R _m + R _p	R _t = 2.16

コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策 3.0kg/m³以下2.16 Kg/m³ < 3.0Kg/m³ 判定 適

以上